



「顧客満足と社会貢献に尽くす!そのために、日々社内改革を促進する!」という基本方針を掲げる株式会社林建設。同社は創業から100年を迎える2035年に向けて、顧客への信頼と信用を築くとともに、社員に対して各自の幸福と社会的使命を果たす、という経営理念を推進している。そして、ITを活用した業務の効率化や業務時間の短縮を実現するために、サイバーセキュリティ対策にも積極的に取り組み、Sophos MDR Essentialsを導入した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



株式会社 林建設

株式会社 林建設

本社所在地 〒664-0899 兵庫県伊丹市大鹿1丁目91番地

WEBサイト <https://www.hayashikensetsu.com>

ソフォスソリューションズ Sophos MDR Essentials

EDRの導入において、社員に負担が生じてはいけないと判断して、Sophos MDR Essentialsを選択しました。

株式会社林建設
総務部 次長
大内 勝仁 氏



1930年に創業し、兵庫県を中心に建築工事や土木工事などの建設業で100年企業に向けた成長を続けている株式会社林建設。同社は「大阪港赤レンガ倉庫改修工事」や「篠山市立篠山小学校耐震改修工事」のような歴史的な建物の改修工事や、学校法人・社会福祉法人の案件また集合住宅や個人邸まで、地域に貢献する工事の施工とサービスで信頼と信用を築いてきた。同社の総務部では、社員のIT活用をサポートすると同時に、増大するサイバー攻撃に備えるために、Sophos MDR Essentialsを採用してサイバーセキュリティ対策を強化し、顧客や取引先との信頼向上に務めている。

ビジネスチャレンジ

「サイバー保険の案内や他社のEmotet被害を危惧してEDRを検討」

株式会社林建設の総務部で、社内のITシステム構築やPC導入をサポートしている大内勝仁 次長は、Sophos MDR Essentialsの導入に至ったきっかけを次のように切り出す。

「テレビや新聞のニュースを通して、建設業界にもサイバー攻撃の被害が広がっていると感じていました。また、当社と取引のある保険会社からも、サイバー保険に関する案内があり、企業としてサイバーセキュリティ対策

には、しっかり取り組んでいく必要があると受け止めていました。それに加えて、建設工事という業種の特徴として、工事や営業を担当する社員が社内だけではなく各々の担当する工事現場に点在しているため、PCを一元的に管理するのが難しくパターンファイルの更新なども遅れがちになりサイバー攻撃に遭うリスクも高まっていました」。増加するサイバー攻撃への対策を検討していた時期に「同業社がEmotetに感染して、迷惑メールを送信して取引先に迷惑をかけている、という話を聞きました。その影響なのか、当社の施主様からもサイバーセキュリティ対策に対して、どのように取り組んでい

るのか、といった問い合わせが増えるようになりまし。こうした背景から、旧世代のバージョンファイル更新に頼るエンドポイントセキュリティ対策には限界があると判断して、次世代型のサイバーセキュリティ対策の検討を開始しました」と大内氏は振り返る。

テクノロジーソリューション

「EDR導入に必須の監視体制を社員が担うのは困難と考てSophos MDR Essentialsを採用」

新たなサイバーセキュリティ対策への検討において、大内氏は「まずはEDRに注目しました。EDRならば、従来型のエンドポイントセキュリティ対策では検知できないサイバー攻撃をリアルタイムに検知して保護できると考たのです。しかし、当初に検討したEDRには、導入における課題がありました。それは、EDRによってリアルタイムに検知された脅威を分析し対処するための人材不足でした。建設業界には2024年問題も

あり、人手不足も深刻化しています。そのため、本業での人材採用を優先する必要があり、サイバーセキュリティ対策の専門人材を採用するのは困難でした」とEDR導入における課題を指摘する。

サイバーセキュリティ対策に関する相談を受けたリコージャパン株式会社では、監視サービスも含めたEDRを提供しているSophos MDR Essentialsを提案した。大内氏は「リコージャパンには、電子帳票保存法に関連したITソリューションや、工事写真を共有するクラウドサービスなど、以前から数多くの提案をもらっていました。当初、Sophos MDR Essentialsというセキュリティサービスは知りませんでした。しかし、ランサムウェア感染を復旧するクリプトガード機能や、MDR運用チームが脅威の封じ込めと応答をリモートで対応してくれる、という説明を聞いて機能や性能に納得しました。特に評価したのは、セキュリティの専任者がいなくても、EDRを効果的に運用できる点でした。そこで、Sophos MDR Essentialsの導入に関する稟議書を経営層に提出しました」と選定の経緯を説明する。

ビジネスインパクト

「工事現場や支店での安全性を改善し顧客への信頼も向上」

Sophos MDR Essentials採用の評価について、大内氏は「提出した稟議書は、予想していたよりも早く決済してもらいました。経営層でも、サイバーセキュリティ対策の強化は急務だと受け止めていたようです。稟議が通ってからは、本稼働に至るまでに入念な検証とPCの準備を行いました。エンドポイントセキュリティのSophos Intercept X Advanced with XDRを利用するために、古いPCを更新したり、業務で利用しているアプリなどが動作するかチェックしました。検証期間中に、一部のPCでWebブラウザがブロックされたりしましたが、ソフォスのサポートセンターに問い合わせで問題も解決できました」と説明します。また、Sophos MDR Essentials運用後の効果について、大内氏は「『無事これ名馬』ではないですが、サイバー攻撃に関する被害がまったく発生していないのが、最大

の効果だと受け止めています。導入後は、定期的にSophos Centralをチェックするようにしていますが、ソフォスによる24時間年中無休の監視体制を信頼しています。Sophos MDR Essentialsは、クラウド経由ですべてのPCを監視してくれるので、工事現場や支店で利用しているPCの安全性も向上しました。セキュリティ専任の人員を増やすことなく、約50名の社員が利用するPCを安全に運用できるマネージドセキュリティサービスを導入できたので、満足しています」と評価する。

フューチャービジョン

「Sophos Firewallの導入も検討しサイバーセキュリティ対策を強化していく」

今後に向けたサイバーセキュリティ対策について、大内氏は「Sophos Firewallの導入を

検討しています。Sophos MDR Essentialsでは、他社のUTMも監視してくれますが、リコージャパンからSynchronized Securityの説明を聞いて、保護対策の強化や対応の自動化を促進するためには、Sophos Firewallの利用が効果的ではないかと考えています」と語る。

Synchronized Securityは、Intercept XとSophos Firewallが連携し、サイバー攻撃の脅威による被害を削減し、IT管理者の負担を軽減する。

さらに大内氏は「リコージャパンには、今後も当社の業務改革やPCの安全な利用につながる提案を期待しています。サイバーセキュリティ対策は、施主様への説明責任や企業の信頼性を確保していくうえでも、重要な取り組みなので、ソフォス製品の最新情報も含めて、定期的に必要な対策やサービスを提案してもらいたいと願っています」と期待を寄せる。

